

四中を卒業した20,263人の先輩たちが大切にしてきたもの。それは「校歌」と「校訓」、そしてスクールカラーである「えんじ」です。これらは四中が四中であるための象徴となるものです。

その校歌ですが、残念ながらコロナの影響もあり、ここ4年間、四中生は、校歌を歌う機会が激減してしまいました。

皆さんには、校訓である『素朴 勤労 自治』という言葉が歌詞の中に入っているこの校歌を、四中生として心の中にしっかりと宿してほしいと願っています。

皆さんが、10年後、20年後、いや50年後に集ったとき、みんなで校歌を歌ってほしいのです。校歌に愛着を感じ、校歌を歌うことで、四中で過ごした日々が思い出されるようになってほしいのです。

高校野球。甲子園で勝利を挙げた学校は、ホームベース上で一列に並び、校歌を歌います。校歌を歌う選手の表情は、勝った喜び、感謝の笑顔、様々な思いをもち、堂々と誇らしげですよね。そこに何とも言えない「母校愛」や「母校を誇りに思う気持ち」というものを感じてしまうのは、私だけではないと思います。

皆さんにとって、「四中を誇りに思えるか」は皆さん自身が誇り高き四中生でなければなりません。皆さん一人一人にかかっているということです。

そこで、皆さんが胸を張って「私は四中生だ」と誇れる生徒になれるために、次のことを心に留め、実践してほしいと思います。

1つ目。「文武両道」です。四中の先輩たちが繋いできた姿でもあります。勉強とその他の活動に、昨年度以上に全力で取り組めることを期待します。

2つ目。「何をやるにも自分から」です。自分から行動するには、自分で考えなければなりません。自分で決めなければなりません。どんな1年にしようかというチャレンジする姿勢をもってほしいと思います。四中は「誰もが主役になれる学校」です。自分を主役にして、自分自身のストーリーを描いてみてください。その延長線上に、皆さんの「自立」が待っています。

3つ目。「やればできる」です。本当の意味は「やれば成長できる」です。「成功」の反対は「やらない」ことです。失敗を恐れず、積極的にチャレンジすることで、自分自身の新たな一面が見えてくるはずですよ。

そして、自分が「やることで成長できた」と思えることがあったら、思いっきり自分をほめてください。何回でもほめてください！その回数が増えるといいですね。

1年後、皆さんの大きく成長した姿が見られることを期待しています。